アイセル 21 静岡市女性会館 情報誌

WAVE

誰もが自分らしく生きる社会を実現するために。

vol.94
2021.6
TAKE FREE

アンマウナフジフラスタジオ

VB4

ボンオヤージ

英和女学院ダンス部

Purple Ribbon Dance Festival

静岡商業高校チアリーディング部

静岡大学ダンス部

常葉高校ダンス部

撮影・動画編集　静岡産業大学

2020.11.28開催
「パープルリボンダンスフェス」出演者

contents

相次ぐ児童虐待、そしてDV P2
interview「働くって何だろう」
悩んだ子育て期を乗り越えて P4
第17期アイセル女性カレッジ
50代から始める セカンドキャリアデザイン P5
AICEL TOPICS P6
これからの講座のご案内 P7

静岡市女性会館は、女性も男性も誰もが自分らしく幸せに生きることができる社会を目指し、課題解決型事業に取り組んでいます。現在は、「女性の就業継続の応援」「困難を抱える女性のエンパワーメント」「男性にとっての男女共同参画の推進」の3点に重点を置き、男女共同参画社会の実現に力を注いでいます。

発行 静岡市女性会館
編集
発行年月：2021年6月　編集・発行：静岡市女性会館（指定管理者NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか）

図書コーナーご案内

図書コーナーは、男女共同参画社会実現のために、情報の力で女性をエンパワーメントすることを目的とした女性問題の専門図書室です。
図書・情報の専門スタッフが、より良い人生をすごしていただくためのお手伝いをします。
女性、男性を問わずご利用ください。

- ◆場　　所　静岡市女性会館1Ｆ
- ◆利用時間　9:00～19:00
- ◆休 館 日　・第2・4月曜日
  ・年末年始、蔵書点検
  ・図書整理日ほか
- ◆貸出点数　・図書、雑誌あわせて10点
  ・CD、カセットあわせて2点まで
- ◆貸出期間　2週間
- ◆貸出方法　貸出には図書コーナー専用の利用者登録カードが必要です。
  免許証、保険証など公的機関発行の証明書をお持ちくだされればその場で発行します。

相談無料 秘密厳守　女性のための総合相談

ひとりで悩まないで、まずはお電話を

結婚・離婚、恋愛、夫婦のこと、親との関係、子どもとの関係
ＤＶ、暴力・虐待、セクハラ、職場の人間関係、経済的困窮
妊娠・出産、子育て、これからの生き方など…

女性の相談員があなたの気持ちを尊重し、一緒に解決を目指します。

受付時間	火	水	木	金	土
10:00～13:00	○	○		○	○
14:00～18:00	○	○	14:00～20:00	○	

電話相談の事前予約は不要です。まずはお電話ください。

女性会館 相談専用ダイヤル　054-248-1234

●女性相談員による面接相談（予約制／1回 50分）
電話相談のあと、ご希望や必要に応じてご利用いただけます

●女性弁護士による法律相談（予約制／1回 30分）
第1土曜日・第3木曜日　14:00～17:00
弁護士への相談がスムーズにできるよう、電話相談で受け付けています。

面接・事前申込予約制　40代以下の女性のための 就職・転職・キャリア相談

まずはお電話またはHPにてご予約ください。事前に相談シートをお送りします。

●申込受付日時／同月の1日（1月のみ5日）12:30より
●面談日／毎月第3水・金・土曜日 ①10:30～11:20　②13:30～14:20（1回50分）

女性会館事務室　054-248-7330

アイセル21　にじいろ電話相談

セクシュアリティや性別違和で悩んでいる方、または周囲の方からのお話を伺います。

■恋人やパートナーのこと
■誰にも話せなかったこと
■これまでの自分・これからの自分のこと
■学校、職場でのこと
■家族のこと　　など

毎月第2土曜日　14:00～17:00

にじいろ
054-248-2216

静岡市女性会館 アイセル21

所在地	静岡市葵区東草深町3-18
会館時間	9:00～21:30
休館日	第2・4月曜日 年末年始（12月28日～1月4日）
TEL	054-248-7330
FAX	054-246-7833
E-mail	mail@aicel21.jp
HP	https://aicel21.jp

バス
JR 静岡駅北口10番のりば
県立病院高松線
「アイセル 21」前下車

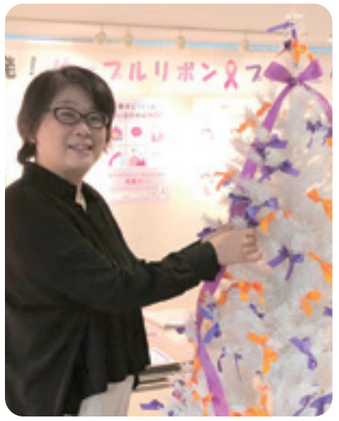
徒歩
JR 静岡駅北口より30分
静鉄新静岡駅より20分
日吉町駅より15分

居場所を求めてさまよう あなたと私に、今できること

主催講座「相次ぐ児童虐待、そしてDV」より

児童虐待とDVの深い関連性が注目されています。しかし、支援の一本化や専門家の組織づくりはなかなか進みません。背景にあるシングルマザーや非正規雇用の貧困、ジェンダーに起因する社会問題は深刻さを増す一方です。三歳児餓死事件や大阪二児置き去り死事件などの取材を通して、DVと虐待に着目してきたルポライターがいます。杉山春さんです。DVや虐待問題に社会全体で取り組むために今、何が求められているのか、聞きました。

（静岡市女性会館職員　鍋倉紀子）



女性に対する暴力防止と児童虐待の防止を願って

杉山氏は自らをジャーナリストではなくルポライターと呼ぶ。事象に対する主張や見解を主眼に置くのがジャーナリストなら、事実関係を仔細に伝えることに徹するのがルポライターだろう。だから杉山氏の著作にはジャーナリズム系の本にありがちな「あとがき」の類がほとんどない。事件をひたすら追いかける取材は、長い裁判の後にようやくたどり着いた簡潔な判決と同時に筆が置かれる。

事件には加害者と被害者がいる。児童虐待事件なら加害者は親で被害者は子だ。だから報道では残虐な親とかわいそうな子どものコントラストが徹底して描かれる。世間の反応も一様に加害者を非難し被害者を憐れむ。そして口ボットか万能の神であれと言うかのごとく行政や学校の担当者、時には近隣住民をも批判する。

事件は裁判を通して語られる。生い立ちや転居地を追いかけ全国各地に飛ぶ一方、裁判の傍聴、拘置所の面会、手紙のやりとりなどを重ねながら対象と徐々に接点を持つ。こうして、加害者、被害者、行政の担当者、学校関係者、弁護士、事件を取り囲むひとりひとりの人間の姿がしだいに浮き彫りになっていく。

追いつめられ 居場所をなくす親と子ども

子育てには金と時間が必要だ。杉山氏は言う。一人で生きていくのにも必要なものだが、一人なら簡単にできたことも子どもがいたら簡単にできなくなる。非正規雇用者が増え、長時間労働や過酷な労働環境に身を置く人が増えた今は特にそうだ。男が外で働き女が家にいることで可能にした近代家族の育児形態も大きく崩れている。しかし政治も社会もまだ、男＝金を稼ぐべき主体、女＝家事と育児を負うべき主体であるという観念に支配されている。杉山氏は取材を通して、虐待やDVの加害者であり被害者でもある彼や彼女もまたそのような思いに強くとらわれていることに気づく。

自分自身が放置児であったり、両親から虐待されたりDVに遭った過去を持つ加害者は決して少なくない。幼少期にこのような体験をすると、自己肯定感が極めて低く、大人になってからも社会に対しても自分に対しても自信と責任を持って建設的な信頼関係を築くことができないケースは非常に多い。だから、育児に不可欠である金と時間のどちらかあるいは両方が失われるとき、親にとっても子どもにとっても唯一無二の居場所であった家庭は容易に崩壊し、暴力やコントロールによって支配するか逃げ出すことでしか自分を保てなくなってしまう。家庭に権威を求める者はDV、居場所を求めてさまよう者は家出や育児放棄、そして最終的には家庭でも社会でも最も弱い立場にある子どもへの虐待に向かっていく。

どうすれば子どもは助かるのか、子どもが助かることによって自らも助かるのか、そこへの思考回路は、すっぽり抜け落ちている。公的機関の手や目が入るチャンスはあるのだが、人を信頼して頼ることを知らない彼らはかたくなに目をそらし、自分と子どもの存在を消すことで身を守ろうとする。

加害者の過去と 被害者の未来を思うとき

虐待事件が報道されるたび、よくもこんなひどいことができるものだと社会は怒りで沸騰する。しかし、取材を進めるほど杉山氏が戸惑うのは、加害者の過酷な幼少期、大人になってもなお弱い立場で生き続けなければならない現実、そして、周囲の人から良く思われたい、評価されなければ生きる価値はないと半ば脅迫観念のように思い込む生真面目さである。

DVや虐待の加害者もかつては子どもであり、被害者と同じような過酷な環境を這うように生き延びてどうにか大人になった者もいるという現実に思いをはせるとき、加害者と被害者を明確に区分できるほどDVや虐待の背景は単純ではないことがわかる。どんな悲惨な境遇で育っても立派になっている人はいくらでもいるという反論もあろう。しかし、これまで命を落としてしまった子どもたちが過去のどこかのタイミングで無事助けられたとして、あるいは、今、虐待に遭っている子どもたちを救いだせたとして、その後何十年とつづく人生を彼らはどう生きていけばいいのか、そのために私たちは何ができるのかを考えたとき、「施設に預ければいい」とか「児童虐待を厳罰化すればよい」というようなことではとうてい対処しきれないことに気づく。

弱い立場に置かれることを忌避し、だれもが強くあろうとする社会は誰にとっても生きづらい。しかし、それを口にすることさえもはや許されないような気がしている。自分の生きづらさを誰かに理解してほしいと願うように、誰かの生きづらさを私は共有できるだろうか。誰かが私を受け入れてくれたように、私も誰かを受け入れることができるだろうか。社会というものがまだ存在するのであれば、私たちは、まだ社会を信じ、信じるに値するものとして行動できるだろうか。

＊　＊　＊

杉山氏は講演の間、加害者たちを「お父さん」「お母さん」と穏やかな口調で呼んでいた。彼らはどんなときでも自分が父であり母であると思うがゆえにそこから逃れられずにいた。逃れられないと思ったからこそ逃げたのだ。誰の助けも求めず、自分自身が助けを求めるべき存在であることすら知らず、自滅し、彼らにとって唯一の救いであったかもしれない子どもを苦しめ、命を奪っていく過程は、私たちの社会が弱者を孤独に追いつめ、居場所をなくしていく過程に重なる。

支援者や相談担当者が多く聴講するなか、杉山氏は次のような言葉を残した。五感を信じて動くこと、自らの行動と知識、不安でさえも周囲と共有すること、加害者や被害者、弱い立場にある人を強さで社会に適応させるのではなく、対話を通して説きつづけること、「この社会はあなた、そして私のものだ」。

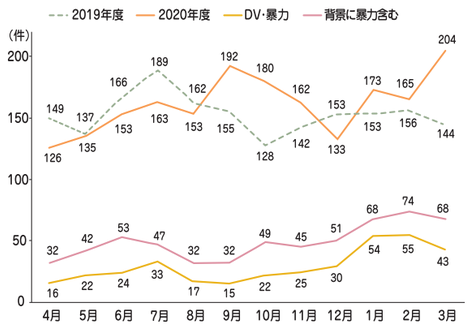
（2020年11月17日開催）

杉山春（すぎやまはる）さん
ルポライター。児童虐待や家族問題からひきこもりや自死にも対象を広げ、綿密な取材を続けている。近年は子供の居場所づくり活動も行う。

2020年度女性会館相談室レポート

全国に緊急事態宣言が出された2020年4月、貸室利用中止に伴い、面接での相談は休止しましたが、電話相談は継続しました。学校が休校になり、在宅勤務が奨励されたステイホーム期間は前年を下回った相談件数でしたが、9月から相談は急増し、年間では、前年比104件増の1,938件にのぼりました。国の統計でもDV相談が増えていると話題になりましたが、女性会館に寄せられる相談の内容も「DV・暴力」は増加傾向にあり、背景に女性に対する暴力が含まれるケースも加えると、累計で593件、全相談の3割を占めています。相談件数の増加と共に相談内容も深刻化しているのが現状です。

月別相談件数



SPECIAL INTERVIEW

「働くって何だろう」悩んだ子育て期を乗り越えて

社会人デビューは雇用機会均等法施行直前。当時は、まだ結婚や出産を機に退職する女性が多く、ご自身もそのひとりでした。子育て中に目にした「レッツチャレンジ～女性の新しい働き方を探る～」というタイトルに惹かれて第7期アイセル女性カレッジを受講。その後、キャリアコンサルタントの資格を取得し、現在は、仕事を求めている子育て中の女性を支える星野直美さんにお話を伺いました。

マザーズハローワーク静岡
就職支援ナビゲーター
星野 直美さん

【プロフィール】
静岡市出身。静岡県立厚生保育専門学校卒業後、デパートに就職。販売、総務・経理、旅行手配業務を経験。第一子妊娠をきっかけに退職。妊娠中から幼児の音楽教育に従事。カレッジ修了後は別の業界で働き続け、4年前にキャリアコンサルタントの資格を取得。2017年から現職。
プライベートでは、目下静岡おでんの秘伝の出汁を追求中。

就労観が変わった！女性カレッジ

―カレッジ受講当時のご自身を振り返っていかがですか。

当時はまだ一番下の子が小学校入学前で、子育てサークルから頼まれてリトミック講師として活動していた頃でした。実際は有償ボランティアのような仕事でしたが、自分としては働いているつもりだったのに、家族から「そんなの趣味でしょ」と言われて何も言い返せず、モヤモヤが残りました。そんな時に女性カレッジが開かれることを知り、一から自分を見つめ直してみようと思って応募しました。そこで学ぶことで、モヤモヤの原因がわかり、自分のやりたい仕事ではなくきちんと収入を得られる仕事に就きたいと思うようになりました。

―キャリアコンサルタントを目指そうと思った理由は。

カレッジ修了後、とにかく社会に身を置いてみようと意気込んだのはよいのですが、正社員で再就職をした会社は自分が思っていた仕事内容とは異なったので、すぐに転職活動を開始。その後は、ハローワーク、特別支援学校、障がい者向けの就職支援機関などで任期付きの仕事を続けてきました。人が生きていく上で働くことはとても大事であり、就労の機会をどんな人にも提供したいという思いが強くなり、キャリアコンサルタントの資格取得を目指しました。

―今のお仕事のことをお聞かせください。

静岡市役所の隣にあるマザーズハローワーク静岡で、子育てをしながら就職活動に取り組む方の就職支援をしています。来所される方は、退職してからブランクがあり再就職に不安を抱えている方や子育て中のため今は短時間の仕事を希望している方など様々です。一人ひとりと向き合う中で、将来を見据えてどのような仕事や働き方が望ましいのかを一緒に考えながら、相談にあたっています。そのうえで、実際の就職活動をする際に必要な求人の探し方や応募書類の作成を支援したり、応募先事業所の紹介などを行っています。このほかにも自己分析や自己PR方法など就職活動に役立つセミナーの講師もしています。

―コロナ禍は求人に大きな影響を与えたと言われていますが、これから仕事を探す女性へのアドバイスをお願いします。

新型コロナウイルス発生以前に比べ、求人数全体が減少していることもあり、子育て中の女性が希望する勤務時間や休日に対応できる求人も少なくなった印象があります。就職活動を行うには、どのような仕事に就きたいのかだけではなく、どのような働き方をしたいのかという長期的な視点を持つことが大事だと思います。そのためにも、今自分が置かれている状況を整理し、これからの生活で何を大切にして生きていきたいのかを考え、仕事内容や勤務時間などの条件に優先順位が付けられると、職業選択の幅が広がると思います。壁にぶつかっても、何かしら打破できる方法はあるかと思いますので、どのようなことでも気軽に相談していただければと思います。

＊＊＊

ご自身も子育てと仕事の狭間で悩んだ経験がある星野さん。子どもたちも皆成人し、あの頃は子育てのことしか見えていなかったと振り返る。「今がすべてではない」ということを伝えたい。

マザーズハローワークとは…

子育て中の方、子育てが落ち着いた方、将来、仕事と子育ての両立を考えている方のためのハローワーク。仕事の紹介、仕事や就職に関する相談、セミナーの開催や保育に関する各種情報などのサービスを提供。施設内にはキッズスペースや授乳室が設置されている。

第17期アイセル女性カレッジ
50代から始めるセカンドキャリアデザイン

アイセル女性カレッジは、1995年にスタートした女性のための人材育成講座です。

第17期のテーマは「50代から始めるセカンドキャリアデザイン」。「家族のことを優先してきた」「自分を主張してはいけない」と、自分の思いや行動にブレーキをかけてきた45歳以上の女性を対象に、人生の後半を自分らしく、社会でも活躍する人材になることを目的に開催。22人の講座生は、社会のジェンダー問題、50代からの人間関係、お金、キャリア、政治について学びました。最終回は、「私らしく踏み出す一歩」をテーマに、社会に向けて何をしたいか、ワールドカフェにて積極的に意見を交換し、お互いの「一歩」を共有できました。「優しい社会」「ジェンダー」「多様性」など、実生活では、なかなか言えない言葉を声にすることで見えてきた自分らしい人生の第一歩を女性会館は今後も応援していきます。コロナの影響で十分なグループワークができなかったり、オンラインで実施せざるを得なかったりもしましたが、受講生からは「自分を活かす場所、やるべきことがあるとわかった」「声を上げる仲間と『繋がれた』ことで、私自身のやりたいことが見えてきた」等、前向きな感想をたくさんいただきました。

今年度の女性カレッジは「働く女性のためのセカンドキャリア」（全7回）をテーマに9月18日（土）開講予定です。詳細は、決まり次第、女性会館ホームページ、市広報などでお知らせします。ご期待ください。

講座終了レポート

11/16
対等な夫婦のカタチ

毎年11月に行われている「女性に対する暴力をなくす運動期間」に合わせ、対等な夫婦関係やモラルハラスメントについて学びました。精神保健福祉士の資格を持つ公認心理師の千野洋見さんを講師に迎え、講演やワークを通して被害を自覚し具体的にどう行動するべきかなどについて考えました。参加者からは「具体的な対策を知ることができた」「対等という意識をまず私たちが子どもたちに根付かせたい」などの感想が寄せられました。

12/20
シングルマザーのためのプレゼント講座

仕事や家事、育児に忙しいシングルマザーのためにプレゼント講座を開催。サンタの帽子をかぶった講師陣を迎え、なごやかな雰囲気の中、まず市担当者がコロナ禍におけるひとり親世帯対象の給付金の説明を行いSingle Parent 101代表の田中志保さんが民間サポート情報を紹介してから、ヨガ講師Kaoriさんとリラックスヨガを体験しました。「有益な情報を知ることができた」「ヨガでリフレッシュできた」と大変喜ばれました。

2/11
卒論・探究学習発表会

高校生11グループと大学生3グループがジェンダーに関連したテーマの卒論や探究学習の発表を行い、静岡大学男女共同参画推進室助教の横山麻衣先生が講評をしました。発表した高校生からは「大学生の発表を聴くのは初めてだったが、とても多くのことを学べた」との声がありました。聴講者は「たくさんの学生たちが社会を変えていこうとする意識を持っていることに感動した」と驚きをかくせませんでした。

AICEL TOPICS

「パープルリボンプロジェクト」が事業企画大賞受賞

女性に対する暴力をなくす運動期間に行っているキャンペーンイベント「パープルリボンプロジェクト」が、全国女性会館協議会主催第14回事業企画大賞を受賞しました！静岡市女性会館が大賞を受賞するのは、これで3度目です。本来なら、全国大会の開催館である熊本県男女共同参画センターでの表彰式に臨む予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を鑑み現地入りを断念、オンラインでの事例報告となりました。プロジェクトは2016年に始まり、世界中で知られる啓発ダンス「Break the Chain」を踊って、女性への暴力防止について考えるものです。毎年若い世代の参加が増え、幅広い世代を巻き込み、2018年からはダンスフェスとして開催しています。2020年はコロナの影響で無観客でしたが、テーマに対するダンサーの想いを、より多くの人に届けようと、動画を制作、公開しました。本誌表紙のQRコードよりぜひご覧ください。

3月8日は国際女性デー ジェンダー平等への関心高まる

1904年3月8日にニューヨークの女性労働者が賃金改善と労働時間短縮、参政権を求めてデモを行った日にちなみ、1975年、国連が国際女性デーを制定しました。女性に対する差別撤廃と女性の地位向上を訴える国際女性デーですが、まだ日本ではあまり知られていません。女性会館が実施したSNSアンケートでも国際女性デーのことを「知っている」と回答した人は29%でした。今年は国際女性デーの前後1週間に、東京五輪・パラリンピック組織委員会元会長の女性蔑視発言をどのように感じたか市民の皆さんの声を集めました。「周りにいた人たちもこの発言を笑っていたので、周りがまず変わらなければいけない」「いろいろな人が疑問を持ち、考えるきっかけになればいいと思う」などの意見が寄せられ、高校生からシニアまでジェンダー平等についての関心の高まりを感じました。

図書コーナー発のイベント 絵本で楽しく過ごす朝

「1日の始まりに絵本の読み聞かせをしてみませんか」乳幼児とその保護者に呼びかけたイベントを、10月から3月まで開催しました。コロナの影響で半年遅れのスタートとなりました。毎月第3月曜日の朝、図書コーナーのキッズスペースに限定5組の親子が集まり、司書と一緒に、絵本を読んだり、手遊び歌を歌ったり、絵本の読み方、選び方や育児雑誌の紹介を受けました。おしゃべりがまだの子も歌に興味を持ち、大型絵本に眼を見張って声をあげて笑ったりと、親子で楽しんでいただきました。終了後には、「いろいろな本があるんですね」と一般書の書架をのぞいたり、貸出カードを作って絵本や雑誌を借りていかれる方もあり、本をもっと身近に感じる朝のひと時となったのではないでしょうか。

毎月第４土曜日 女性のためのほっとスペース ふらりOPEN

新型コロナウイルスの感染拡大は、女性の仕事や生活、心理面に大きな影響を及ぼしました。長引く自粛生活で「家族も自分もストレスを抱えている」「勉強したいけど、集中できない」という人も増えました。仕事を失ったりシフトが減ったりして、限られた収入の中で「やりくりが大変」という声も聞こえてきます。静岡市では、そんなときに誰かと話したり、ひと息ついたりすることができるスペース「ふらり」を開設しました。「他愛もない女子トークがしたい」という人のためにおしゃべりカフェタイムを設け、会場には、手芸や工作ができるグッズ、インターネットがつながるパソコンも用意しました。申込は不要、参加費無料、いつ来てもいつ帰ってもOKです。ぜひ、ふらりと立ち寄ってみてください。(開催時間は10:00～16:00)

これからの講座のご案内　2021年7月～2021年12月

オンライン開催「愛の不時着」韓国ドラマを読み解く

コロナ禍の中、動画サービスで配信されて以来、沼落ちする人続出の韓国ドラマ「愛の不時着」。第4次韓流ブームを引き起こしたこの作品に、なぜ多くの人が惹かれたのか、ジャーナリストの治部れんげさんと一緒に、ジェンダー視点で考えます。第1部は講演、第2部は講師との交流や質疑応答タイムです。

- 日　時　6月26日(土) 13:00～14:30
- 対　象　どなたでも30人（第1部30人 第2部16人程度）
- 会　場　オンライン(Zoom)
- 講　師　ジャーナリスト 治部れんげさん
- 参加費　無料
- 申込み　6月1日(火)10:00からHPで（申込順）

Jo-Shizu(静岡女子)防災講座 私の声を地域に活かす

女性会館発！女性の視点を生かした防災知識とノウハウが身につく人気連続講座を今年も実施します。女性の支援を専門とする講師が災害や復興の実状を説明します。女性が欠かせない現場で、自らどう動くべきか、今からできることから考えましょう。

- 日　時　7/17、31、8/21、28、9/11（いずれも土)13:00～16:00
- 対　象　静岡市在住の女性20人
- 会　場　研修室
- 講　師　(独)国立女性教育会館 専門職員 丹羽麻子さん ほか
- 参加費　無料
- 託　児　要申込み(1歳～未就学児) 子ども1人につき500円
- 申込み　7月4日(日)17:00までにHPまたはお電話で(多数選考)

ハイヒールを履いたお坊さん ～多様な性とマインドメイク～

メイクアップアーティスト、僧侶、LGBTQ活動家として多彩に活躍している西村さんと、静岡市内のバーテンダーである鈴木さんから、自由に生きにくい社会で、どのように自分らしく堂々と生きるか伺います。第1部は対談で、後日限定配信、第2部は講師を囲んでの質疑応答タイムです。

- 日　時　7月19日(月) 14:00～16:00
- 対　象　どなたでも30人
- 会　場　B-nestプレゼンテーションルーム（静岡市御幸町3-21ペガサートビル6F）
- 講　師　僧侶　西村宏堂さん　バーテンダー　鈴木章予さん
- 参加費　無料
- 申込み　7月1日(木)10:00からHPで（申込順）

一緒に踊ろう“BTC”ダンス！ ①②③

①はオリエンタル・ボリウッドダンスの講師、②③は全国大会にも出場している静岡大学ダンス部が、毎年女性会館で開催するパープルリボンダンスフェスでもおなじみの国際的なダンス「Break the Chain」を指導します。一緒に身体を動かし、表現する楽しさを体験しましょう。ご家族での申込みも大歓迎です！

- 日　時　①8月19日(木)　9:45～11:30 ②9月16日(木)　18:45～20:30 ③10月21日(木)18:45～20:30
- 対　象　どなたでも15人（小学生未満は同行可）
- 会　場　フィットネスルーム
- 講　師　①木下みどりさん(VB4) ②③静岡大学ダンス部
- 参加費　無料
- 申込み　各開催月1日10:00から HPまたはお電話で(申込順)

後悔しないための 離婚の法律知識①②③

①基礎知識②お金③子どもをテーマに3回シリーズで学ぶ女性のための法律講座。「離婚」の2文字が頭をよぎった時、感情に任せるのではなく、法律の知識をもとに、長期的な視点で主体性を持って考えられるよう、女性弁護士が離婚に関する法律知識を分かりやすく解説します。

- 日　時　①9月30日(木) ②10月28日(木) ③11月25日(木) いずれも9:45～11:15
- 対　象　各回 女性20人
- 会　場　研修室
- 講　師　松原華子さん(弁護士)
- 参加費　無料
- 託　児　要申込み(1歳～未就園児) 子ども1人につき500円
- 申込み　各開催月の1日10:00から HPまたはお電話で(申込順)

ジェンダーに関する探究学習を応援します！

昨今、公立私立問わず探究学習を行う高校が増えてきました。女性会館は、地域の男女共同参画を推進する拠点施設として、ジェンダー課題に取り組む生徒さんたちを応援したいと考えています。どうぞお気軽にご相談ください。

探究学習のサポート内容

- ☆具体的なテーマの相談
- ☆資料の団体貸出
- ☆インタビューしたい人の紹介
- ☆アンケートの作り方や実施の協力

発表者も同時に募集しています。2022年2月には、ジェンダーに関する卒論・探究学習発表会を開催します。ぜひ学校外で発表する機会にしてください。問合せ、申込みは、お電話で。

申込先・問合先	静岡市女性会館　〒420-0865 静岡市葵区東草深町3-18	tel 054-248-7330 hp https://aicel21.jp

会場は、記載がない限り、女性会館(アイセル21)になります。